

2026年4月のバイオ医薬品市場

■バイオ医薬品関連企業の株価動向

4月のナスダック・バイオテクノロジー指数(ドルベース、配当含まず)は下落しました。

世界の株式市場は、月初に米国とイランが停戦合意に達したことで投資家の過度な不安が和らいだことに加え、AI(人工知能)関連企業を中心に好調な企業決算や今後の成長への期待が高まったことなどから、大幅な上昇となりました。このような中、バイオ医薬品株式も上昇しましたが、上昇率は市場全体を下回りました。ギリアド・サイエンシズ(米国)によるチュブリス(ドイツ)の買収など、M&A(合併・買収)の動きが活性化していることがバイオ医薬品株式の上昇に寄与しました。またレボリューション・メディシズ(米国)が活性化KRAS阻害薬について有望な治験結果を発表するなど、医薬品開発の進展もバイオ医薬品株式の株価を下支えしました。

株価が上昇した銘柄としては、ヴィアトリス(米国)、インサイト(米国)、ジャズ・ファーマシューティカルズ(米国)などが挙げられます。ヴィアトリスは、株式市場が全体的に反発する中で、高キャッシュフローである点が見直され、株価が上昇しました。インサイトは、市場予想を上回る好調な2026年1-3月期決算を発表したことなどを背景に、株価が上昇しました。ジャズ・ファーマシューティカルズは、睡眠障害薬やがん治療薬の成長期待などから株価が上昇しました。

図表1:バイオ医薬品株価指数

(ナスダック・バイオテクノロジー指数)の推移

2026年4月30日時点

	前月比	過去3ヵ月	過去1年	過去3年	過去5年	過去10年	
ナスダック・バイオテクノロジー指数(ドルベース)	0.4%	0.2%	37.6%	40.0%	20.5%	109.0%	
ナスダック・バイオテクノロジー指数(円換算ベース)	0.7%	4.6%	54.8%	67.4%	77.4%	205.4%	
ダウ工業株30種平均(円換算ベース)	7.5%	6.0%	37.3%	74.1%	115.8%	308.3%	
円/ドル レート	0.3%	4.4%	12.5%	19.6%	47.2%	46.1%	
(参考)	当月	前月	3ヵ月前	1年前	3年前	5年前	10年前
円/ドル レート	160.39	159.88	153.66	142.57	134.13	108.93	109.75
PSR (倍)	6.8	6.7	6.8	5.4	5.6	8.4	7.1

※為替レート: 対顧客電信売買相場の仲値 ※PSR: ナスダック・バイオテクノロジー指数のPSR
出所: ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

株価が下落した銘柄としては、リジェネロン・ファーマシューティカルズ(米国)、ギリアド・サイエンシズ(米国)、バーテックス・ファーマシューティカルズ(米国)などが挙げられます。リジェネロン・ファーマシューティカルズは、月末に市場予想を上回る良好な四半期決算を発表したものの、加齢黄斑変性治療薬アイリニア関連のリスクなどが意識され、株価が軟調な動きとなりました。ギリアド・サイエンシズは、5月上旬に決算発表を控える中、チュブリスなどの買収やがん領域への積極投資が利益を圧迫する可能性が意識され、軟調な推移となりました。バーテックス・ファーマシューティカルズは、5月上旬の決算発表を前に、利益確定の売りが優勢となったことなどから、株価が低調な推移となったと見られます。

■今後のバイオ医薬品市場見通し

バイオ医薬品株式市場では、かつては収益性の欠如が逆風となっていました。新薬を上市した中型のバイオ医薬品企業が高成長・高収益性を示し、セクター全体の利益水準の大幅な改善に貢献しています。この背景には、バイオ医薬品企業から良好な治験結果の発表が続いていることや、米食品医薬品局(FDA)による新薬承認件数が過去数年と同程度の高水準で推移していることなどがあり、景気動向に左右されることなく画期的な新薬が開発されていることが挙げられます。さらにAI(人工知能)が、創薬の最適化、開発、臨床試験、患者層別化、規制プロセスといった領域で大きな効果をもたらし、最終的には、個別化医療に向けた大きな一歩となるとみられます。加えて、2025年に回復したバイオ医薬品企業をターゲットとしたM&A(合併・買収)についても、大手の医薬品企業や大手のバイオ医薬品企業が大型治療薬の特許問題に直面し、パイプラインの強化が求められていることもあり、2026年も増加傾向が続くと期待されます。

バリュエーション(投資価値評価)面では、バイオ医薬品セクターは、他のセクターと比較して割高感はなく、AI・テクノロジー関連からの分散を図る中で、イノベーション銘柄の一角として注目を集める可能性があると考えます。なお、地政学リスクの動向、金利水準やマクロ環境の変動に伴い、バイオ医薬品株式はボラティリティが高まりやすい点には引き続き留意が必要です。また、薬価を巡る政策議論は今後も断続的に続くと思われるものの、過去10年と同様に、真に付加価値の高い治療薬への影響は限定的とみています。

図表2: 今後のバイオ関連学会予定

開催期間	学会名
2026年5月2日～5月6日	米国リウマチ学会議(ACR)
2026年5月28日～5月31日	欧州高血圧学会議(ESH)
2026年5月29日～6月2日	米国がん治療学会議(ASCO)
2026年6月3日～6月6日	欧州リウマチ学会議(EULAR)
2026年6月4日～6月8日	米国微生物学会議(ASM microbe)
2026年6月5日～6月8日	米国糖尿病学会議(ADA)
2026年6月11日～6月14日	欧州血液学会議(EHA)
2026年6月13日～6月16日	米国内分泌学会議(ENDO)
2026年8月18日～8月21日	国際糖尿病学会議(IDF)
2026年10月9日～10月12日	米国骨代謝学会議(ASBMR)
2026年10月17日～10月20日	米国神経学会議(ANA)
2026年11月4日～11月8日	米国がん免疫療法学会議(SITC)
2026年11月7日～11月9日	米国心臓病学会議(AHA)
2026年12月12日～12月15日	米国血液学会議(ASH)
2027年1月21日～1月23日	ASCO消化器がんシンポジウム
2027年2月19日～2月22日	米国アレルギー・喘息・免疫学会議(AAAAI)
2027年4月2日～4月7日	米国がん研究会議(AACR)

※学会の開催期間は変更、延期、中止されることがあります
出所: 各種資料を基にピクテ・ジャパン作成

※将来の市場環境の変動等により、当資料に記載の内容が変更される場合があります。記載されている個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、当資料におけるデータは将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

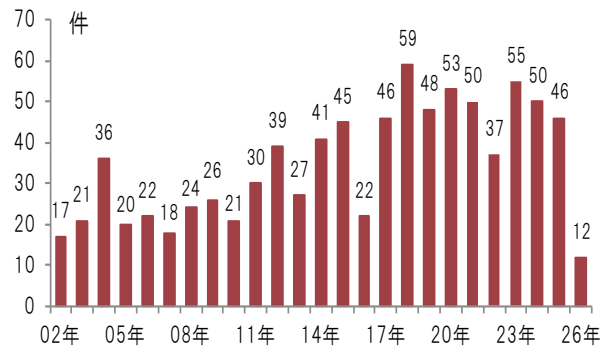
図表3: ナスダック・バイオテクノロジー指数

米ドルベース、月次、期間: 2016年4月~2026年4月



図表4: 米食品医薬品局(FDA)による新薬承認件数

年次、期間: 2002年~2026年 (2026年は4月末時点)



出所: FDAのデータを基にピクテ・ジャパン作成

図表5: 注目のパイプライン

領域	企業名	治療薬名 治療対象病名	領域	企業名	治療薬名 治療対象病名
中枢神経系領域	バイオジェン(エーザイ)	レカナマブ アルツハイマー病	がん領域	アーカス・バイオサイエンス / ギリアド・サイエンス	ドムバナリマブ PD-L1 高発現非小細胞肺癌
	アルナイラム・ファーマシューティカルズ	ALN-APP(RNA治療) アルツハイマー病(AD)または脳アミロイド血管症(CAA)		ギリアド・サイエンス	トロデルピビ(適応拡大) 乳がん、非小細胞肺癌(NSCLC)
	バーテックス・ファーマシューティカルズ	VX-548 急性疼痛		アクロ・セラピューティクス	エフルキシフェルミン 非アルコール性脂肪肝(NASH)
	イントラセルラー・セラピーズ	ルマテペロン 混合性の大うつ病および双極性うつ病		マトリガル・ファーマシューティカルズ	レスメチロム 非アルコール性脂肪肝(NASH)
	カルナ・セラピューティクス(プリストルマイヤーズスクイブが買収)	KarXT 統合失調症		アルティミュン	ベムビデチド 肥満症
	ゼノン・ファーマシューティカルズ	XEN1101 大うつ病		アムジェン	Maridebert Cafraglutibe 肥満症
希少病領域	バイオマリン・ファーマシューティカル	ロクタピアン(遺伝子治療) 血友病A	その他の領域	アベリス・ファーマシューティカルズ	サイフォフレ 地図状萎縮(GA)
	サレプタ・セラピューティクス	エレピジス(遺伝子治療) デュシェンヌ型筋ジストロフィー(4~5歳対象)		アイベリック・バイオ(アステラス製薬が買収)	アイザーヴェイ 地図状萎縮(GA)
	アミカス・セラピューティクス	Pombiliti/Opfoldaの併用 ボンベ病		アルジェニクス	エフガルチギモド コロナ感染後の体位性頻脈症候群
	アルナイラム・ファーマシューティカルズ	アムヴトラ(適応拡大) アミロイド心筋症		バクサイト	VAX-24 肺炎球菌ワクチン
	クリスタル・バイオテック	ビジュベク(遺伝子治療) 表皮水疱症		リジェネロン・ファーマシューティカルズ(サノファイ)	デュビセント(適応拡大) 慢性閉塞性肺疾患(COPD)
				ロイバント・サイエンス	プレボシチニブ 皮膚筋炎/全身性エリテマトーデス(SLE)
		ベンティクス・バイオサイエンス	VT002 潰瘍性大腸炎		

※ライセンス供与された治療薬も含まます
 ※赤色付きは米国または欧州で承認済み
 出所: 各種資料を基にピクテ・ジャパン作成

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

■ バイオ医薬品関連企業の売上高は新薬承認後の業績寄与などにより相対的に高い伸びに

バイオ医薬品関連企業の売上高は、堅調に成長してきました。(図表6参照) バイオ医薬品関連企業については、引き続き多くの有望な治療薬候補を有しており、新薬承認後の業績寄与が期待されていることから、今後3年間で年率+15.1%の相対的に高い売上高の伸びが予想されています。(図表7参照)

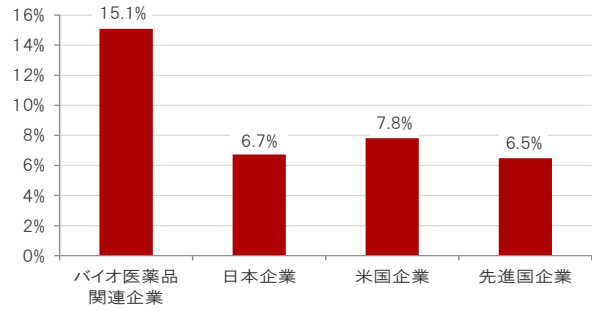
■ 売上高の伸びに沿って株価も上昇

過去の実績では、バイオ医薬品関連企業の株価は、売上高の伸びとともに上昇してきたことがわかります。(図表8参照)

■ バリュエーション

バイオ医薬品企業の業績が景気動向に左右されにくい特性などが注目されて2021年夏頃までは株価が上昇し、PSR(株価売上高倍率)で見たバリュエーション(投資価値評価)の水準も上昇していましたが、2021年秋以降は新薬承認申請に対するFDAの予想外の決定などがマイナス要因となったことに加え、2022年半ばにかけてナスダック市場の下落が大きくなる中、ナスダック・バイオテクノロジー指数も下落したことからPSRも低下し、その後、低水準で推移してきました。ただし、2025年秋以降はバイオ医薬品株式の上昇を受けて、PSRも上昇しています。(図表9参照)

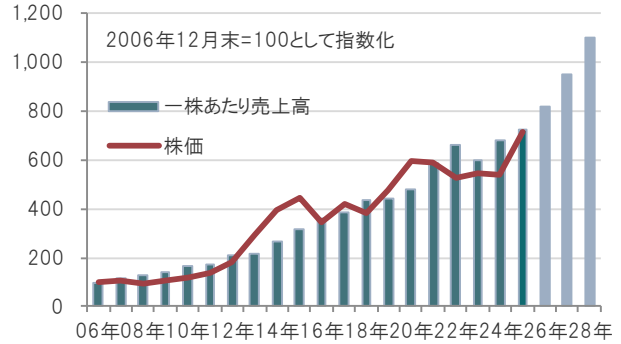
図表7: 今後3年間の売上高伸び率(年率)予想
時点: 2026年5月13日、ブルームバーグ集計アナリスト予想平均



※バイオ医薬品関連企業: ナスダック・バイオテクノロジー指数構成銘柄
日本企業: TOPIXの構成銘柄、米国企業: S&P500種株価指数の構成銘柄、先進国企業: MSCI世界株価指数の構成銘柄
出所: ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

図表8: バイオ医薬品関連企業の売上高と株価の推移

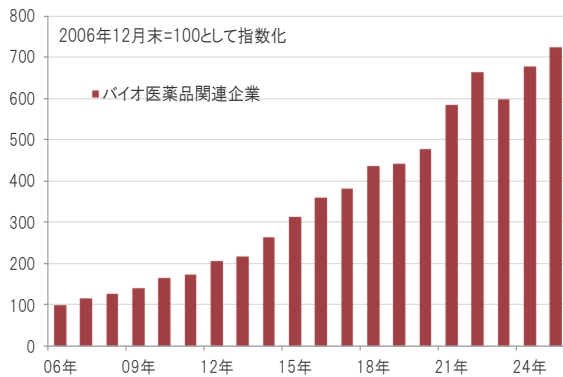
米ドルベース、期間: 2006年12月~2025年12月(実績)、2026~28年(予想)



※バイオ医薬品関連企業: ナスダック・バイオテクノロジー指数構成銘柄 ※一株あたり売上高は、指数の値とPSR(株価売上高倍率)から算出 ※2026年~2028年の一株あたり売上高は、ブルームバーグ集計アナリスト予想平均(2026年5月13日時点)
出所: ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

図表6: 売上高の推移

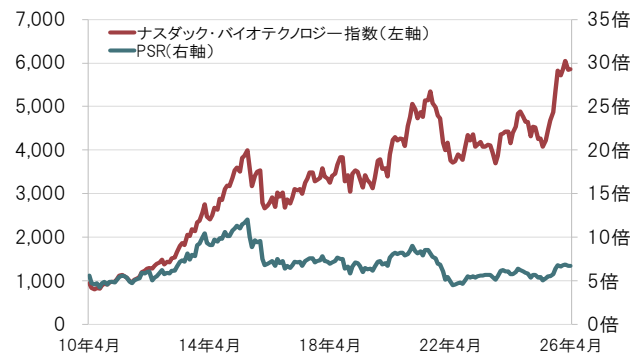
米ドルベース、期間: 2006年12月~2025年12月



※バイオ医薬品関連企業: ナスダック・バイオテクノロジー指数構成銘柄 ※売上高は一株あたり売上高(指数の値とPSR(株価売上高倍率)から算出)
出所: ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

図表9: ナスダック・バイオテクノロジー指数とPSRの推移

米ドルベース、月次、期間: 2010年4月~2026年4月



※PSR: ナスダック・バイオテクノロジー指数のPSR(株価売上高倍率)
出所: ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

ピクテ・ジャパンの投資信託をご購入する際の留意事項

1. 投資信託に係るリスクについて

- (1) 投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります）に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様が投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- (2) また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資にあたっては目論見書や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

2. 投資信託に係る費用について（2026年4月1日現在）

ご投資いただくお客様には以下の費用をご負担いただきます。

- (1) お申込時に直接ご負担いただく費用：申込手数料 上限3.85%（税込）
※申込手数料上限は販売会社により異なります。
- (2) ご解約時に直接ご負担いただく費用：信託財産留保額 上限0.3%
- (3) 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用：信託報酬 上限年率2.09%（税込）
※ファンド・オブ・ファンズの場合、ここでは投資対象ファンドの信託報酬を含む実質的な負担を信託報酬とします。
※別途成功報酬がかかる場合があります。
- (4) その他費用・手数料等：監査費用を含む信託事務に要する諸費用、組入有価証券の売買委託手数料等、外国における資産の保管等に要する費用等は、信託財産から支払われます（これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません）。
ファンド・オブ・ファンズの場合、投資先ファンドにおいて、信託財産に課される税金、弁護士への報酬、監査費用、有価証券等の売買に係る手数料等の費用が当該投資先ファンドの信託財産から支払われることがあります。詳しくは、目論見書、契約締結前交付書面等でご確認ください。

当該費用の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、ピクテ・ジャパン株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収する各費用における最高の料率を記載しています。投資信託に係るリスクや費用は、各投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前によく目論見書や契約締結前交付書面をご覧ください。

当資料をご利用にあたっての注意事項等

■当資料はピクテ・ジャパン株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。■投資信託は値動きのある有価証券等に投資するため、基準価額は変動します。外貨建資産の場合は為替変動リスクもあります。したがって、投資者の皆さまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失が生じ、投資元本を割り込むことがあります。運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。■当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性、特定の目的への適合性を保証するものではありません。記載内容は作成日現在のものであり、予告なく変更される場合があります。また、過去の実績は、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。■投資信託は預金等ではないため、元本および利回りの保証はなく、預金保険機構または保険契約者保護機構の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。■当資料の内容は、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を目的としたものではありません。■当資料に掲載されている内容に関する著作権その他の知的財産権は、原則として、当社、ピクテ・グループまたは正当な権利者に帰属します。無断での使用、複製、転載、改変、翻訳、配布等は禁止されています。マーケット・データのご利用に関する詳細は、当社ウェブサイト「会社情報」の「運用・方針等」内の「マーケット・データ利用規約」をご参照ください。

ピクテ・ジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第380号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会 日本証券業協会

※MSCI 指数は、MSCI が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI に帰属します。またMSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

データ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。